

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ゆり棟)

事業所番号	0691400030		
法人名	さくら福社会		
事業所名	グループホーム村山		
所在地	山形県村山市大字富並1469番9		
自己評価作成日	平成 26年 10 月20 日	開設年月日	平成 25年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様と常に同じ目線に立ち、思いやこだわりを受け止め、その方らしい生活が継続できるように力を入れています。また自然に恵まれた大高根地域で、天気次第で外の散歩を楽しみ、のんびりと生活できております。地域の方々の協力も多く、様々な行事へのお誘いやボランティアの慰問など地域に根付く努力をしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 11月 18日	評価結果決定日	平成 26年 12月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は周囲に広がる景色を眺めて自然を満喫し、目の前で繰り広げられるグランドゴルフに想いをはせながら、それぞれにくつろぎゆったりとした生活を送っています。散歩や買い物に出かけて気軽にふれ合い、近隣の農家から食材を仕入れたり、運動会に誘いを受けるなど地域との交流も増し、またグランドで実施された防災訓練では参加機関として加わり、福祉車両を使って搬送手段を確認したり、炊き出し訓練で利用者も一緒ににおにぎりを作るなど、開所から一年が経過して地域での活動や役割を積極的に担っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年3月全職員よりアンケートを実施し4月から実践しております。「大高根の自然の中で利用者様と共に過ごす時間を大切に、笑顔を忘れず温かみのある生活の場を提供いたします」各ユニット・事務所に掲示し、共有しております。	理念と併せて各ユニットごとの目標を掲げ、自然の中で利用者に明るく笑顔で過ごしてもらえるように管理者と職員が一体となって取り組んでいる。利用者同士にもそれぞれの役割ができたり互いに安否を気遣うようになり、和やかに過ごしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区長さん・市民センターさん・消防団との交流が深くなりました。日頃の感謝をお返ししたく「さくらの集い」も開催しました。10月には地区の防災訓練にも協力し、より一層の交流を図ります。	地域行事への参加やボランティアの慰問なども多く、交流が増えている。ポスターやチラシを作って呼びかけを行い「さくらの集い」を開催したり、近隣の農家から食材を購入するなど良好な関係を築き、地域の中で理解者が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内多くの団体がホームの視察に来所されており、認知症の方々の生活ぶりや職員の対応など説明させて頂いております。また民生委員さんを通して随時、介護相談できる事業所として説明しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており、地元代表者・市役所・ご家族・利用者様など毎回多く参加されます。皆様顔見知りの方々なので、ざっくばらんなご意見があり地域密着に相応しい場になっております。	参加者からの意見を取り入れ、繁忙期には夜間の開催も試み好評を得ている。会議を重ねるたびに打ち解けて活発な意見が交わされ、地域の情報などをもらいサービスの向上に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所の担当者へは日頃から相談を行い、ホームの現状や様子をお伝えしております。また市町村からの情報もこまめに頂いております。	市の連絡協議会に毎月出席し、介護事業の現状や居宅事業などの情報交換を行っている。確認事項や疑問点について助言をもらうなど、双方向的関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	「身体拘束排除宣言」を掲示しゼロを目指しております。現在該当される方はおりません。勉強会も開催し、職員が正しく理解できるように努めています。	研修を重ねて身体拘束による弊害について理解し支援している。ベッドからの転落防止などでもどのように対応すべきか全員で安全か拘束か検討し、過度の支援にならないよう統一した関わりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内勉強会の中で年に1度高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けています。職員ひとりひとりが虐待の認識を深め、意識付けを行っています。常に優しく接することを心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中で権利擁護事業について学ぶ機会を設ける予定です。現在制度を利用されている方はおりませんが、今後に備え知識として必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの際、法改定時には十分な説明を行ない、ご理解いただけてから契約しております。重要事項説明書を用いわかりやすいように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の掲示、重説への明記だけでなく、意見を話しやすい職員との関係性作りに努めています。細かい意見や提案は職員ですぐ協議し改善に努めています。	面会時にプランの作成などや満足度について確認したり、気兼ねなく話ができるように雰囲気づくりに留意し、些細なことでも苦情として捉える姿勢で臨み、業務に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議やユニット会議を設け、職員の意見交換に役立てています。日々の業務の中でも、随時相談は受けております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の実績として、ブロック長・代表者へは報告されています。現場の職員は各担当を毎月確実に遂行し、現場が円滑に業務を行なえるように、努力しています。資格取得にも前向きでそれに見合った給与レベル、賃上げはされています。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修だけでなく、経験年数に合わせた外部研修への参加を推奨しています。また、業務改善委員会からも、介護技術向上のための現場チェックの指示がきています。	職員一人ひとりの職域や経験・習熟度に応じて研修の機会を与え、受講後は伝達研修で共有し、内部研修も定期的に行っている。事故対策委員会や感染症対策委員会など三ヶ月に一回会議を開き、スキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	村山市社会福祉協議会が開催する連絡協議会には毎月出席させていただき、情報交換を行っております。また法人内でも毎月、庄内ブロックの各事業所との会議・委員会を通し相談や交流を図っております。	市から現在の介護状況の説明や、各事業所からの報告と感染症対策などの情報交換を通じて質の向上に励んでいる。法人で行われるブロック会議や各委員会において問題を提起し、連携を図って日々のサービスに繋いでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず管理者、計画作成者がご本人様とお会いし心配な点を時間をかけてお聞きしています。入所前は誰も不安でいっぱいであり、顔見知りになれるように努力しています。入所後は知った顔があることで、利用者様も安心されるようです。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、相談時の段階からご家族様の相談に誠意をもって対応しております。またホーム内を見学して頂きながら、少しずつ不安が解消されたり、要望を話しやすくなれるように努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの介護状況・現在の心身の状況・サービスを利用するようになった経緯を考慮したうえで、ご本人様・ご家族様が必要としているニーズと目標を見極めプランの作成を支援しております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線に立ち、ホーム生活が自宅の延長であるように支援しています。センター方式を活用できるところを見極め、個人を尊重した上で対応できるように配慮しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告、特変時での電話連絡、毎月お手紙発行など、担当者が中心となりわかりやすくお伝えしています。面会・外出を自由とし、ご家族様との絆を大切に考えております。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ昔馴染みの方々との関係が途切れない様、外出を通し馴染みの場所を訪れています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で活動する時には皆様をお誘いし、男女の区別なく交流したり、利用者同士の関係の把握に努め、職員も一緒に関わりながら楽しめる企画作りを行なっております。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もスムーズに次へ移行できるように情報提供を行うと共に、相談には随時応じています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を確認し計画に反映するとともに職員間での情報共有に努めています。また、日頃より良くお話しをお伺いして、思いを把握できるように努めています。	担当者を主体に全員で利用者の思いを汲み取り、家族の思いも大切に意向を把握し、日々の関わりを通して言葉や表情から真意を推し測るなどさりげない支援を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ケアマネから生活歴・趣向を伺い、馴染みの生活が送れるように努めている。また入所時には人生の歩みシートをご家族様から記入していただきます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	IADL表を用い、日々変化する心身状態の把握に努めています。利用者一人ひとりの生活リズムを把握した上で、その人にあつた対応を行っております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回カンファレンスを行い担当者のモニタリング・プラン変更時のアセスメント・ご家族様、ご本人様の意向を確認して介護計画をたてております。	担当者によるモニタリングと月一回のカンファレンスを通じて全員の意見を集約し、計画作成を行っている。利用者日々笑顔で楽しく生活してもらい、食事や健康面と安全面に配慮し、利用者主体の暮らしを支援できるように計っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子や介護計画実施の記録を個別に記入するとともに、ユニット毎のIADL表を使い、気づきや特記事項なども記入しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さくらの集いを開催し、近隣商店からの食材購入、地区グラウンドでの散歩、災害連絡網の整備などにより、より地区に添った生活ができるように支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認を行うと共にホーム対応をご希望される方には在宅診療所の訪問診療をお勧めし、適切な医療を受け入れるよう支援し、また、以前からの医院を望まれる方へも情報を提供し柔軟に対応しております。	それぞれ希望するかかりつけ医を受診しており、他科目診療を必要とする時は医師からの紹介状を持参して、事業所での様子も伝えている。薬の管理は各担当者が責任をもって行い、服薬の際はダブルチェックして誤薬防止に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅診療所の訪問看護師に状況等報告し指示をうけています。週1度の訪問時に利用者様の状態を伝え、見ていただき、不安のないように支援しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の日頃の様子やADLなどの情報を医療機関に対して提供しております。また、入院中の状態を医療機関やご家族様に確認し主治医との面談を通し情報交換に努めております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルケアについて説明を行っております。かかりつけ医や在宅診療所の往診等の対応によりできるだけホームでの生活が続けられるよう取り組んでおります。	利用前に事業所の指針(医療行為が必要になった場合が支援の範囲である)を説明すると共に、段階的に今後の方針についての話し合いをしている。看取りに向けては看護師の非常勤を課題の一つにあげて検討している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて救急隊への情報提供表や事故発生時のマニュアルを整備し、勉強会を行っております。地域防災訓練では心肺蘇生法とAED使用について研修会を行う予定です。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当者が計画を立て年二回の防災訓練を行い、避難経路の確認や誘導方法・順序を身につけるよう取り組んでいます。また大高根防災訓練に参加し大地震を想定した地域訓練を行い、地域の方と災害対策を考慮しています。	大高根地区防災訓練では本部を事業所内に設置し、情報収集・初期消火・福祉車両によるケガ人等の搬送・炊き出し訓練に参加している。炊き出しには利用者の手伝い、地域との絆を深める訓練になっている。	地域防災訓練では参加機関としてより実践的な訓練に取り組まれているが、事業所における災害対応について近隣住民や地域消防団との協力体制を築くことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人々の人格や性格を理解し、プライドを損ねない声掛けを行うよう心掛けて対応しております。また接遇の勉強会を重ね、介護とは・認知症とは？を常に意識し対応しております。	研修を通して職員の意識も変わり、親しき仲にも礼節をもって、言葉の使い方や挨拶を絶やさないと管理者の指導のもと人格を尊重した接遇に取り組んでいる。生活歴など入居時の情報も職員間で共有し、会話や関わりに活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員制をとり日頃より相談等を受け、何でも話せる関係作りに努めております。本人の希望を確認し業務にあたっております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課等を無理強いせずひとりひとりのリズムに合わせた生活支援を行うよう心掛けております。出来るだけ希望の声が聞けるように密な関係作りに努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中で、ご本人様の好みを把握し、着替えの時などは確認しながら支援しております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する嗜好を把握し、食事を提供しています。また職員と一緒に準備・盛り付け等を行っていただき食事等も会話しながらしています。	法人の献立を基に、できる限り家庭的なものを温かいものは温かく提供することに心がけている。調理の音や匂いは利用者の五感にも届き、家での暮らしと同じように和気あいあいと皆で食している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	さくらホーム山形の栄養士が作成した献立を中心に毎日の食事が出来上がります。食事のカロリー制限や量の制限のある方、形態、禁食など把握に努めながらも楽しみのある食事を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日3食後の口腔ケアを実施しております。出来ない方には援助をしながら口腔内の清潔を維持しております。利用者の皆様方には食後の歯磨きが浸透しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄を記録し排泄パターンをつかみながら、できるだけトイレでの排泄を促しております。細かい排泄誘導で失禁量がだいぶ軽減できております。尿意・便意を大切に、トイレ介助を援助しております。	排泄チェック表を活用して、できる限りトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。声掛けや介助、失敗した時などの羞恥心や自尊心への配慮には十分気を付けて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、野菜を多く取り入れたメニュー、体操などで自然排便を目指しています。便秘がちな方は個々に主治医と排便コントロールの相談をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様が不満を感じることはないよう入浴順番や性別に配慮し、ゆっくり入浴できるように職員がそばで付き添い行なっております。事業所には機械浴の設備もありますので、下肢の不安定な方も入浴ができます。	併設する小規模多機能と3つの浴室(1つは機械浴)を共用している。利用者をよく知る職員の介助で、不安なくゆっくりと、会話を楽しみながら本音も聞ける温かい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の環境を整え、お好きな時間に休息できるようになっております。休息している間も、その方の状態に合わせて巡視を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は担当者が行なっておりますが、投薬変更時は随時申し送りを充分に行い、周知しております。服薬時もおひとりおひとりが確実に服用していたかチェック管理しております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る作業をなるべく割り当て、皆様の役割作りを支援しております。縫い物、食事準備、花壇いじりなど楽しみと感謝をわすれない活動を援助しております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換をかねて外出の援助を行なっております。またリクエストに応え外出先を決めたり、買い物へ出かけています。天気の良い日にはすぐに散歩へ出かけ季節感を感じています。	散歩やドライブなど日常的に出かけて外気浴や季節を感じてもらっている。また、年間計画で花見やバラ公園見学などを企画して外出しており、個別には担当者が買い物などに付き添うなど満足に繋げている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は入所時にご家族様と相談し所持しております。玄関横の自動販売機でジュースを購入される方もいらっしゃいます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は5名おり、いつでもご家族様と通話可能になっています。また希望があれば固定電話への取次ぎはいつでも可能です。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットとも高い天井に広いホールで外光が入りやすく清潔に保っております。温度調整をこまめに行い快適な空間で過ごせるように配慮しています。季節ごとの装飾品を飾り、演出しております。	ホールを囲むように居室が配置され、見守りに安心な造りとなっており、事務室回りの廊下は広く手すりも付いて歩行訓練に活用している。2つのユニットが厨房でつながり調理などを協力して行っている。また、それぞれの装飾係を中心に利用者と一緒に飾りつけ、趣きも異なった雰囲気を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでも、お一人の時間を過ごせるように、各所にテーブルやイスを配置しております。一緒にお話ししたり、活動するときも和気あいあいとできるように配慮しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・寝具等、使い慣れたものをご持参いただき落ち着いた生活をご支援しています。ほぼ皆様のご自分のお部屋に愛着があるように見受けられます。	入り口の表札は付けず利用者の作品などで誰の部屋かわかる様にしている。夜間はポータブルトイレを置いている方もおり、お気に入りの写真や作品を飾り、その方らしい居室づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前ではなく似顔絵やトイレには表示で自立できるように見守りを行なっています。手すりを多く配置することで、移動の重要な手段にもなっております。			